

SYNAPIS ニュース

社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

No. 58 2021. 3

今月のテーマ：諸宗教との対話と平和



海外庶民が語る「宗教と平和」

カトリック大阪大司教区 社会活動センター

シナピス 

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。

イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

TEL 06-6942-1784

FAX 06-6920-2203

E-mail sinapis@osaka.catholic.jp

宗教が違う者同士が互いの宗教の間に共通善を見出し、学び合い、協力し合うという諸宗教対話の精神は教会が福音宣教の本質のひとつとして大切にしてきたもので、教皇様が出される書簡、特に世界中が共有する苦しみや課題についてキリスト者に対して呼びかける書簡には必ずといっていいほど宗教を問わず「全ての善意の人たちと協力し合って」という意味の言葉が含まれます。

ところで、日本においてはキリスト者が少数であるため私たちの身の回りにもこの諸宗教対話の機会が多くあります。日本では家族そろってカトリック信者という家庭もありますが、家族の中で信者が一人だけであるために生じる難しさを感じている人も多くいるようです。

私ごとで恐縮ですが、私自身も家族の中で信者がひとりだけで、友人も無神論者も多く、諸宗教対話をせざる得ない状況に置かれていました。学生時代に洗礼を受けてからしばらくの自分を振り返ると随分教条的な信仰生活を送っていたように映ったようで、家族や友人にとっては私がどこか遠くにいったような戸惑いを感じていたようです。

それがクラレチアン宣教会に入り、養成担当司祭との出会いが転機となりました。この神父さんは「あなたは、もう立派な大人なのでからマニュアル通りの養成はしませんよ」と、尊敬と信頼をもって向き合い、寄り添ってくれました。この画一的な既製仕立てではない、ひとりひとりを大切に育てる養成のおかげだったのか、家族や友人も彼らにとって身近な私に戻ったように感じたようです。そして、キリスト教の教義についてはわからないながらも不思議と司祭になっていく私の背中を積極的に後押ししてくれるようになってくれました。

つまらないことですが、これこそ自分にとっての諸宗教対話と土台となる体験です。諸宗教対話を実践するために必要なことは、先ず私たちが自分の信じる宗教によってよりよく生きる者となっているかということ。もうひとつは私たち自身が確固とした信仰を持ちながらも相手にとって心許せる身近な存在になることです。

互いが相手を自分の身近な存在と感じればそこから平和も生まれますが、そのためのモデルとなるのが異邦人を含めすべての人の隣人になろうとした主イエスの姿です。

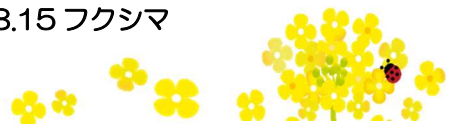
今月のページ

■ ニュースレター 目次 ■

- 1 巻頭言
- 2 宗教を超えた宗教者の平和活動
- 3 子どもたちに伝えたい平和
- 4 障がい者委員会より
- 5 海外ルーツの庶民が語る「宗教と平和」
- 9 時報 3月号より
- 11 教えてください～！！第十一弾！
- 13 沖縄とわたしたち 最終回
- 14 憲法がかわったらどうなるの？最終回
- 15 あとがき

■ チラシ・ご案内 ■

- ・シナピスの風（A3 小教区と修道会のみ）
- ・3月の祈り
- ・忘れないあきらめないカレンダー
- ・シナピス映像カフェ
- ・入管法セミナー
- ・性虐待被害者のための祈りと償いの日
- ・2021年四旬節教皇メッセージ
- ・日本カトリック正義と平和協議会より 3通
- ・いのちの光 3.15 フクシマ
- ・映画の紹介



宗派を超えた宗教者の平和活動

沖縄戦没者の遺骨を辺野古基地建設に使わないでください

先月号で、『沖縄戦没者の遺骨』の尊厳を守るように訴えましょう～宗教者共同声明を受けて』というチラシを同封しました。これは、辺野古新基地建設のために戦没者の遺骨が含まれている土砂が使われないよう、この土砂を使うことを政府に抗議し、計画の即時撤回を求めるものです。

この地域には、今もなお、沖縄戦で亡くなられた方々の遺骨が収集されないまま、埋まっています。それにも関わらず、現在、沖縄県糸満市「魂魄の塔」近くで始まった鉾山の開発によって、戦没者の遺骨が含まれている土砂が辺野古新基地建設の埋め立てに使われる恐れが出てきているのです。

前田枢機卿も「遺骨は死者の尊厳そのものです。遺骨をないがしろにすれば、死者の尊厳を踏みにじることとなります。ましてや、戦争で命を奪われた方々の遺骨を軍事基地建設に利用することなど、命を尊ぶ宗教者として、これを許すことはできません」とのメッセージを寄せています。

この声明を出した「平和をつくり出す宗教者ネット」は、アメリカ同時多発テロ事件以降、戦争という暴力が「正義」の名のもとに正当化されていることに対して、宗教者が「命を守る」という基本的立場を鮮明にし、宗派・教派を超えて心を合わせ、平和の祈りと行動をともに国内外へ広めていくことを目的に発足しました。（「平和を作り出す宗教者ネット」Facebook より）カトリックもこれに賛同し、宗教を越えた平和活動に参加しています。

署名はまだ続いています。趣旨に賛同される方は、下記までご連絡ください。

問い合わせ先：「平和を作り出す宗教者ネット」事務局
〒150-0045 渋谷区神泉町 8-7 日本山妙法寺内
Tel: 03-3461-9363 Fax: 03-3461-9367
Mail: nqh@10948@nifty.com
<https://www.facebook.com/syukyosyanet/>
<https://twitter.com/syukyosyanet/>

シナピスホームカフェ 再開のお知らせ

緊急事態宣言中、閉鎖していたシナピスカフェを再開します。

日時：3月10日（水）より毎週水曜日
13時頃より16時頃まで

場所：シナピスホーム

問い合わせ：下記シナピスまでご連絡ください。

*感染予防のため入場を制限することもありますのでご了承ください。



食糧支援のお願い

コロナで仕事を失った移住者、技能実習生、帰ることができない留学生などの相談が増えています。パスタ、パスタソース、インスタントラーメン、インスタントスープ、米、缶詰、調味料、賞味期限の長いパンなど、日持ちのする食べ物のご支援をお願いします。

詳しくは下記までご連絡ください。



☆電話番号：06-6942-1784 ☆FAX番号：06-6920-2203
☆メール：sinapis@osaka.catholic.jp



子どもたちに 伝えたい平和



吉田兼子(シナピスボランティア)

お隣の国韓国も春から新学期です。日本と違うのは3月2日から始まることです。なぜ1日からではないかという、この日は三・一節といって韓国にとって大切な記念日だからです。

第一次大戦後、民族自決の風潮の中、1919年3月1日、ソウルの広場に集まった人たちが「独立宣言文」を読み上げ、日本からの「独立万歳」を唱えながら行進を始めました。三・一独立運動の始まりです。テレビもSNSもない時代、朝鮮半島全土で二百万を超える人々が参加したといわれます。

「独立宣言文」を読むと当時の人々が何を考え、何をしようとしたのかが伝わってきます。宣言文は次のように語っています。「私たちが望まなかった韓国併合により、ふたつの民族の間に怨恨が生まれた。これを正し、仲良く新たな世を開くことが、互いに災難を避け、幸せになる近道である。朝鮮人を力で押さえ付けることは、東洋の平和を保障する道ではない。朝鮮の独立は、朝鮮人が正当な繁栄を成し遂げると同時に、日本が誤った道から逃れ、また中国が日本に土地を奪われるかもしれないという不安と恐れから逃れることでもあり、世界平和と人類幸福の重要な一部分である東洋平和を成し遂げる足掛かりとなる」(現代口語訳の要約)

自国の独立のみならず、相手国と共に平和をつくることを求めたこの運動に対し、総督府は警察、軍隊を動員して激しい弾圧を行い、多くの犠牲者を出しました。

当時日本では正確な情報は届けられず、ほとんどの人が独立運動を「事件」「暴動」ととらえましたが、大正デモクラシーをリードしたキリスト者の吉野作造は、原因は日本の武力支配や差別・同化政策にあるとみてその撤廃を主張しました。また朝鮮の民芸を愛した柳宗悦は、世論の冷たさに対し「朝鮮人のためにしばしば涙し、「我々日本人が今朝鮮人の立場にいると仮定してみたい。おそらく義憤好きな我々日本人こそ最も多く暴動を企てる仲間であろう」と語っています。二人は留学生と出会ったり、朝鮮を旅して接した隣国の人を通じ、その国を理解し、植民地政策の誤りに気付いていました。

植民地主義が広がっていた時代、抑圧に抵抗し平和を求めた人々、彼らに共感した人々がいたということは私たちへの励ましになります。先人がそうしたように、互いに人間同士として向かい合う中から平和が生まれるということを忘れずにいたいと思います。

「通訳するってむずかしい」

教区障がい者委会 吉川康夫

毎週会う青年がいる。決まって晴れの日には「今日は、晴れかな」、雨の日は「土砂降りかな」と、話してくる。私は「天気予報は、何て言っていた」と、言い返す。そんなやり取りが1年つづいた。すると最近、「贅沢は、あかんな」、「高い車のおもちゃを買うのは、贅沢やな」と、言う。私は「毎月お小遣いの無駄遣いをしなかったら、年に2回5,000円くらいなら、ええんちゃう」と、答える。すると、「税金って、わからんな」、「税金って、むずかしいな」と、質問が増えてきた。

さあ、何と答えるのが良いのだろう。成人しても自動車のおもちゃを欲しがるとは「ぜいたくは、あかん」、「高い車のおもちゃは、贅沢だ」といわれているのだろう。「税金も高くなっただし」と、言われているのかもしれない。

当事者研究をする中で、双方向の情報保障が大切だと考えている。

さて、手話通訳も同じで「あがる」という言葉にも幾種類かある。「お風呂から上がる」、「家に上がる」、「成績が上がる」、「生理が上がる」、「値打ちが上がる」、「階段を、あがる」、「発表会で、あがる」、みな手話表現は異なる。反対に、「嬉しい」と「楽しい」の手話表現は同じだ。通訳者の口と顔の表情で区別する。だから、マスクをされると読み取りにくい。手話の単語数が少なく、特に典礼に関する手話表現はむずかしい。ことばのまま、通訳しても聞こえない人には伝わりにくい。

では、文字表記ではどうだろうか。手書きにしても、パソコン入力にしても、聞いたものをそのまま文字化することはむずかしい。「靈性」、「冷静」、「冷製」、「令嬢」、「励声」、「令政」など、同音異義語も多い。点字通訳も同じことがあるらしい。点字には漢字がないので、「訳者注」として補足を入れる必要がある。

そして手話の読み取り側も、司式者の顔を見て、手話通訳者の手と顔を見て、要約筆記のスクリーンを読み取ることはむずかしい。

できるだけわかり易い情報保障のために、司式者には、大変なご負担をお掛けしているが、事前に内容を頂戴している。熟読し、腑に落とし理解してから、何とか手話通訳と要約筆記をおこなっている。

最近のつぶやき「通訳は、むずかしい」



海外ルーツの庶民が語る「宗教と平和」

社会活動センターでは毎日のように多様な出身国の人々が顔を合わせています。彼（女）たちなら「宗教と平和」をどう語るのでしょうか。素朴な興味がわいて、2月2日、お茶菓子を手し、難民移住者の皆さんに大いに語ってもらう場を設けました。

椅子についてもらい、まず司会者が「シナピスが主催するけれど、キリスト教に全く遠慮しないでほしい」と断ったうえで、座談会は始まりました。

司会 : 皆さんの自己紹介をお願いします。



アッバスです。
イラン出身です。
宗教はないです。
神様だけ信じます。

私は周です。中国から来ました。
カトリックです。
洗礼は受けてないけど信じています。



アレックスです。
イラン人です。カトリックです。



私はレーノ、
スリランカ人、仏教です。



ペドロ、イランから来ました。
イスラム教です。



シルバ、ブラジル人、カトリックです。

司会 : シルバさんとレーノさんは通訳がなくてすみません。では始めましょう。今の自己紹介で、アッバスさんが、ご自身は神だけ信じると言いましたね、まずそこから教えてください。

アッバス : 私の生まれた国はイスラム教を信じる国です。そのなかで成長するにつれ、神とは何か？宗教とは何か？について考えるようになり、矛盾に気づくようにもなりました。神は我々を造った、でも宗教は神と自分を隔てる壁を作った。直接神に頼むのではなく、誰かに頼んで神に伝えるシステムに矛盾を感じました。

アレックス : 確かに自分で直接神と話すことは素晴らしいし、私自身もそうしている。ただ、生きていくためにはテンプレート、枠組みが必要です。私が生まれた国にはイスラムの教えがあった。今生きている環境には聖霊と聖書がある。聖書には生きていくうえで大切なことが書かれています。私たちが生きていくには、周りの人を尊重し、困っている人を助けないといけない。聖書にはそう書かれています。直接神と話しても、宗教の書物に書かれている枠組みは大切だと思います。

司会 : 聖書やコーランがなくても人は互いを大事にしあってゆけるという考えについてはどうでしょう。

アレックス : その通りでしょう。宗教はなくても人を尊敬したり助けたりできます。ただ私たちは誰も完全ではない。だから生きていく上で宗教、あるいは宗教的な書物があったほうがより正しいことができると思います。

アッバス : 私がどうして宗教など必要なく、神と直接つながれると考えるようになったのかを話します。私が生まれた国はイランです。シリア、アフガニスタン、周囲の国もイスラムです。でもイスラムを理由に殺された人がたくさんいます。戦争も多く、政治にイスラムが使われてきた。私はデモに参加して国に抗議してきました。デモでは妊婦や子どもまで政府によって殺されたのを見てきたんです。宗教をやっている偉い人はピラミッドの上の階層の人ですよ。戦争などに使われる宗教など必要ありません。だから私は神と直接話すんだと思っています。

アレックス : それは宗教の問題より政治の問題だ。人は政治の問題で戦争をしている。イランは石油が取れるし魅力的な国です。周りの国が戦争をしているが、イランの中には戦争を持ち込んでいない。

司会 : 仏教徒のレーノさんはどう思いましたか

レーノ : イランとスリランカは全く違いますね。そんなこと全く知らなかった。子どもを殺すとか心痛いです。

パドロ : え〜？スリランカは戦争がなくて平和ですか。ほんとかなあ。

レーノ : 今は平和です。

アッバス : スリランカでも教会で爆破事件が起こっていましたよ。政治じゃなくて宗教の問題で人が人を殺す。なぜですか。神はいる、悪魔もいる。私が言いたいのは宗教を理由に人が殺される、ということなんです。ニュージーランドでもイスラム教を理由に教会で銃が乱射されたたくさんの方が殺されたでしょう。では宗教の偉い人は何をしてくれているのですか。人々が殺されることに対して何もしていない。だから私は直接神だけを信じるというのです。

司会 : シルバさん、ブラジルではどうでしょう

シルバ : ブラジルにはキリスト教もイスラムも、他にも色々たくさんあります。でもブラジルではテロはないです。宗教が違うからと言って殺しあうことのない。ブラジルの中に問題はあるけど、爆弾とかテロとか、ない。

司会 : 周さんはどう思いますか

周 : 中国国内にも三大宗教（仏教・キリスト教・イスラム教）があります。宗教間の問題も存在します。ウイグル族の問題も宗教から来ています。イスラム教を信じるウイグル族の周囲には仏教を信じる漢族がいて、そこが問題になっています。2007年7月5日、漢族がウイグル族に殺されました。中国政府がウイグル族の弾圧に乗り出しました。お互いにいがみ合っている根源は宗教が問題で、これはアッバスさんの言う通りでしょう。しかし中国の大きな問題は中国人が信仰を失っていることです。私もキリスト教を信じますが、今、中国には一億のキリスト教徒がいて、中国政府はキリスト教、イスラム教を弾圧しています。今の中国人には信仰によって団結する必要があるんです。

司会 : 話は変わって、ここで皆さんに質問があります。日本人は宗教をもっていない、と言われます。また日本人の中には、宗教があるから戦争をするんだという人もいます。これについてどう思いますか。

レーノ : 日本は他の国のようにテロもないし、問題がないです。

アレックス : 宗教が理由で戦争が始まるのなら、日本もアメリカと戦争をしたし、広島に原爆が落ちました。ベトナムでは戦争で化学兵器が使われました。なぜか。戦争は宗教が理由ではなく権力が欲しかったからです。アメリカは、もしシリアに戦争をしかけなければどこに武器を売りますか。そういうことです。

パドロ : 世界中で戦争が起こっている。宗教は関係ない。世界平和は難しい。絶対ない。

周 : 政治がある前に、宗教的意識が人間の中にあります。宗教と政治は密接に関係しています。キリスト教には十字軍という宗教から始まった戦争がありますが当時は政治的に成熟していなかった。政治は宗教意識から生まれた形態で、宗教が戦争を生んでいるわけではない。戦争の起こる理由を宗教や政治のせいにするのではない。人間は本質的に戦争するのだと思います。人間の本質が原因で戦争が起こっています。

アレックス : 周さんの意見に賛同します。

パドロ : 平和は難しい。平和はこないよ～。

アレックス : 戦争は起こってしまうし、戦争を止めることはできません。でも誰もがみな平和に暮らしたいと願っています。それなのに戦争は起こってしまう。例えばイランでもその日のパンを買うお金のない人がいて、その人たちは誰もが平和を願っている。イランでは石油が豊かに採れる、それを理由に戦争が起きているんです。みんなイランとアメリカが仲良くなって平和になってほしいと願っているのに。安倍首相も仲介役をしたがそれは叶いませんでした。

周 : たとえ戦争を避けられなくても宗教は必要だと思います。中国に限って言えば、中国人には宗教が必要だと思います。信仰心があれば一致するから。ひとつになれるから。悪いもの、欲望とかお金のこととか、権威とかに束縛されることがなくなるから。

レーノ : いろんな国の様々な問題を聞いてとても怖くて心配になります。それぞれの国で問題がなかったら一番いいのに、と思います。

シルバ : 国と国の考えは違う。平和が一番いい。問題を忘れることは難しいけど、人間には心があるから問題を解決できる力があるかどうか。難しい問題だけど。

司会 : **シルバさんの祖国ブラジルは大国だけど、確かにブラジルって他の国に戦争をしかけないですね。**

シルバ : 人どうしの小さい問題はあるけど戦争みたいな大きな問題は起こらない。テロとか爆弾とか、ない。

パドロ : 平和は諦めるしかありません。難しい。今日の話聞いてもそう思いました。私はなぜ日本にいるか。自分の国が平和で安心して生きられるのなら、一日たりとも日本にはいないよ。どこにいても私はイラン人でしかない。あなたはどこの国にいても日本人ですよ。それは変わらない。私は30年間も祖国を離れたままで生きるしかない。本当にさみしいです。自分の国の自分の文化で暮らせるのが一番幸せですから。

シルバ : 俺、日系ブラジル人。日本にいたら外国人と言われる。ブラジルいたら日本人と言われる。俺、どこにいても場所がない。自分の居場所、ない。

アレックス : イランにはイスラム教をもとにした法律がある。泥棒したら手を切られるとか。

日本は宗教をもとにして法律を作られていないところがいいと思います。

アツバス : 人間には善い心と悪い心がある。神は人間をどういうふうに造って善悪を配分しているのか。私も自分の中にある善い心と悪い心の配分を意識して生きないといけない。

ペドロ : 祖国に自由があれば、自分の国にいたいですよ。

司会 : ペドロさんは、平和は難しい、諦めるしかない、と言いました。私たちが平和をつくるって無理なことでしょうか。

ペドロ : 難しくない！できるよ。

司会 : え、難しくない？できますか。

ペドロ : 自分の中に、サイレントを持つこと。自分の胸の奥の奥深〜く、静けさの中から聞こえる声を聴くこと。この声は誰でも持っている。その声に従ったら、必ず平和の道に進むことができる。

レーノ : そう、そうです。邪念のないこと。心の声の通りにまっすぐ進むと平和はできる。

シルバ : そう。私も一緒。自分の中の声を聴いたら平和はできる

アレックス : 私はペドロさんとは入管で一緒に過ごしたことがあって、彼だからこそ、この言葉の意味を理解している。そう、人間は平和を求めて生きている。

アツバス : 平和をつくること、それは人を尊敬することです。尊敬が大切です。人にはそれぞれの考え方があり、みんな違います。でも自分たちが違う考え方を持っていることを理解して、他の人を理解することが大切です。

周 : 人類の文化、技術の発達で平和は実現できると信じています。

司会 : 今日皆さん、本当にありがとうございました。
そばで聞いておられた皆さん、感想を一言。

私は平和ボケしています。
皆さんの話を聞いて
感動しました。



政治や宗教が理由で
戦争しているというけれど、
実は人間自体が戦争をしていて、
人がそれを変えることができる、
という話が印象に残りました。



庶民が肌感覚で語る「宗教と平和」。座談会の前には通訳のないシルバさんとレーノさんが参加を躊躇していました。それでも日本語で多くを語って下さり、座談会の終わりには「よかった、今度は是非母語で語り合いたい」と感想を語っていました。

私たちは海外出身の皆さんとは「支援に関する用事」の話題にばかり終始しがちで、「支援する側・される側」の線引きをどこかで常にしていたと痛感しました。アツバスさんが最後に「平和をつくること、それは互いを尊敬しあうこと」と単純明快に語りましたが、今回の座談会で海外出身の皆さんに対する尊敬の念をより強く抱くことができました。第二弾、第三弾をぜひやろうと喜び合って閉会しました。

子どもたちの夢に寄り添いたい

御受難会 はた もとゆき 畠 基幸

イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、
その悩みを少しでも分かち合うことのできる、
教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」
増補新版より

2018年8月、ミャンマーに派遣されました。赴いた先は、ヤンゴン市からバスで5時間、エイヤーワディ川下流域のデルタ地区の河口付近にある港湾都市パテイン市です。2008年5月3日サイクロン「ナルジス」によって14万人の死者と240万人の被災難民がでました。まだその爪痕が残っています。

ミャンマー出身の総長の夢、苦しむ同胞にイエスの十字架の愛を知らせたいという、その夢に答えて志願しました。赴任先の教区はパテイン教区といい、ヤンゴン教区から戦後まもなく分離しました。ミャンマーの信徒総数は80万人、日本と同じ16教区あります。ヤンゴン大司教区はサレジオ会出身のチャールズ・ポー枢機卿、パテイン教区はヨハネ・セ・ヒー司教が担当で、各々6万4千人、合わせて信徒13万人弱の司牧地です。人材が豊富で、とくにカリタスの活動は「ナルジス」での働きが評価され、有能な人材が集まっています。

ところで、わたしが住む聖心小神学校の近くに「ナルジス」のときに孤児になった子どもたちのための家「ファミリーホーム」があります。20名の子どもと担当司祭モーリス神父が共同生活し、今は孤児だけでなく、崩壊家庭の子どもたちの面倒も見ています。教区には、5つの孤児院があります。男子二つと女子二つ、それに乳幼児の施設です。教区は、浄化水をタンクにいれて各家庭に配る水ビジネスの会社を運営して、孤児院を運営しています。



パテイン教区の聖心小神学校
哲学生旧校舎の前でソニー神父(右)と

教区のカリタスは児童労働の問題を防ぐため就学しない家庭の子どもたちを見つけて、子どもを送ってきます。孤児院の子どもたちは卒業後どうなるのかと聞きました。「孤児院の成績のいい子どもたちは軍隊や警察から奨学金をもらって大学へ行く。そうでない子どもは村に戻る。小神学校は、公立学校の勉強の他に、早朝からの小神学校の日課があり、子どもたちの成績はあがらない。去年は一学年全員が大学入学資格試験に落ちてしまった。ところが、孤児院の子どもたちは合格した。孤児院の子どもたちは勉強に集中する。憧れは警察官や軍人になること」ということでした。立派なことですが、私の気持ちとしては、もっと大きな視野で子どもらしい夢を持ってもらいたいのです。

コロナが終結すれば、そこに移り住み、学生寮を作り、孤児院の子どもたちの夢を大きく育て、その夢に寄り添いたい。彼らが第二の故郷と言えるような場を作りたい。この夢を皆様と共有したいですね。(ミャンマーでのクーデター前に執筆いただきました)

わすれない — 福島原発事故から10年が経ちました —

● ● ● 「さよなら原発の会」10年目を迎えて ● ● ●

「さよなら原発の会」は福島原発事故発生の翌年、社会活動委員会の集いを機に発足しました。これまでに原発に関わるDVDの鑑賞会を開催、若狭の原発の現地見学を実施、また原発反対運動や、子どもたちの低線量被曝について住職や医師から学びました。また4年にわたり原発事故被災地の子どもたちを和歌山に招き、大学生ボランティアと共に、子どもたちの放射線被曝の不安を取り除き、心身の疲れをいやすためにキャンプを実施しています。



元京都大学助教小出裕章さんの講演会DVDを皆で見ながら学ぶ

また「今こそ原発の廃止を」(カトリック司教協議会発行)編集委員長の光延一郎神父の講演会を催し、本を販売しました。現在コロナ禍で外部への活動は休止中ですが、「ニュースレター」を引き続き発行して原発の問題点を発信し、原発放棄の意思表示のための「原発ホ〜キ!」ストラップを作成し、全国の小教区にお送りしています。(加古川教会 藤井邦男)

「神は御自分にかたどって人を創造された。……神はお造りになったすべてのものをご覧になった。それは極めて良かった」(創世記 1・27、31)

創世記には人間を、被造界をいとおしむ父である神の思いが記されています。更に神は私たち人間の協力を求めながら、この同じ思いの中で創造の業を続けておられます。しかし人間は神に協力するどころか、神に造られたあらゆるもののいのちを脅かし、神に刃向かうような破壊の業を「発展」という名のもとに推進し続けています。



原発ホ～キ!

私たちは独り子を世に遣わされるほどの父の慈しみを受け止め、社会構造、科学技術といった理論のみを重んじるのではなく、人間の“いのち”、被造界全体の“いのち”を大切にという視点から、原子力、特に考え、キリスト者として、ささやかな活動を続けています。
(代表 愛徳カルメル修道会 加藤喜美子)

2017年夏から、勤務校の学生たちはボランティアとして1週間、大人スタッフと子どもたちと一緒にキャンプをしている。子どもたちを通して、遠い存在だった福島を身近に感じ、子どもたちも時には彼らに甘えたりわがまま言ったりと、普段我慢している気持ちを少しずつ軽くしているようである。

キャンプ最大の楽しみは海。宿舎にお借りした紀伊田辺教会前に広がる海で泳ぎ、今まで見たことのない貝など海の生物を見つけ、自然の素晴らしさに感動する。夜はバーベキュー、そして花火大会。たくさん学んで、遊んで、食べて……、大人になっても色あせない夏休みの思い出となるだろう。



海ではしゃぐ子どもたち

学生、子どもたちはほんの1週間の間にびっくりするほど成長していく。キャンプの意味の大きさを感じる。去年はコロナの影響で残念ながら実施できなかった。早くコロナが終息し、またみんなの笑顔に出会いたい。(摂南大学特任准教授 大野順子)

● ● ● 「いのちの光 3.15 フクシマ」 ● ● ●

発足から8年、仙台教区の「いのちの光 3.15 フクシマ」実行委員会は、被災地及び全国の信徒・市民の方々と原発事故から見てきた諸問題と現地の苦悩、その解決への糸口を探る役割を担い、「いのち」のあり方についてともに考えようと呼びかけ、活動しています。

今月3月13日(土)は「3.15から10年 フクシマが背負ってきたもの伝えつづけるもの」と題し、講演を企画、コロナ対策のためにYouTube配信で開催します。(シナピスニュース同封チラシ参照)



▶▶<https://youtu.be/IWsg1OuFhWE>

また14日(日)主日のミサでは下記の意向に沿って「共同祈願」を唱えていただくよう、呼びかけています。どうぞともにお祈りください。

<後援：カトリック仙台教区>

●2011年の福島原発事故から、早くも満10年を迎えます。世間からは何事もなかったかのように過去のこととして処理されがちになっています。しかし、原発事故被災者の中にはいまだに故郷に戻りたくても戻れない方々がたくさんいます。これらの方々を心に留め、早く故郷に戻れますようお祈りください。

●福島原発の汚染貯水はどんどん増えています。2022年にはタンクの増設も限界に達して、国や東電は海か大気中に放出するしかないと言います。これらの問題を地元住民、福島県、近隣の漁民だけの問題として済ますのではなく、日本全国、又はアジアの問題、世界の問題として捉えることができますようお祈りください。

●東日本大震災から10年が過ぎた今、ここに集う私たちはすべての犠牲者を思い起こし、被災地の復興のために心を合わせて祈ります。今も不安と苦しみの中にあるすべての人に、聖霊の恵みを豊かに注ぎ、新たな希望と力をお与えください。



「エコロジカルな回心」とは？

その汚染水、海に流して大丈夫？！

福島原発の爆発事故から10年。政府はこの間、敷地内のタンクにたまり続けてきた処理済みの汚染水をどうするのか、専門家も含め方法を探ってきましたが、昨秋、二次処理して海水で薄め、放射性物質の濃度を十分に低くしてから海に流す方針を固めました。しかし、現在の技術では処理できずに残ってしまうトリチウムという放射性物質が人体や海洋生物に与える影響については、まだ専門家の意見が一致していないようです。一方、現地の漁業者たちは、いくら科学的に問題ないといっても、安全性に疑問が残ったままであればさらなる打撃を受けることは避けられないため、強い反対の声を上げています。



うーん、でももう約120万トンもの汚染水がたまっていて限界に近づいていうし、何とかしなきゃいけないことは確か。結局、安全なの？そうじゃないの？



今年2月、福島沖の試験操業で獲れたクロソイから国の基準値（1キロあたり100ベクレル）の5倍、500ベクレルの放射性セシウムが検出された。



安全の問題についてはその背景に「不信」があるんじゃないかな。2013年に高濃度汚染水がタンクから大量に漏れ出した時、海も人も危険にさらされているのに、安倍元首相が五輪招致演説で福島原発の影響は「アンダーコントロール！」とか言ってドヤ顔してた。私も愕然として、政府のいうことをそのまま信じて大丈夫だろうか、疑わしくなったよ。地元の人はおさらだよな。



ともに！！

これは地元の人だけの問題じゃない。そもそも海はつながっているから、私は無関係ということはありえないな。自分の問題として、少しでも危ないと思ったら、もっと情報が欲しい、話し合いをやめないでほしいと言いつける。あきらめない。決して忘れない。それが、私にできることなのかな。

アンダーコントロール（管理できてるで）！

カトリック教会 日韓共同の反対声明 ……ほんま？？ 「トリチウムを含んだ汚染水の海洋放出に反対します。」

韓国カトリック司教協議会正義と平和委員会、韓国カトリック司教協議会生態環境委員会、日本カトリック正義と平和協議会、同平和のための脱核部会は、2月9日に共同で放射性物質を含んだ汚染水の海洋放出に反対する声明を出しました。その中で、トリチウムの健康被害について専門家の意見が分かれていること、タンクの増設など、海洋放出以外の方法も検討の余地があること、そして、私たちには未来世代に、本当の意味で安全で安心して生きることのできる地球環境を受け渡す責任があることを述べています。また、私たちが守るべき世代間正義について、教皇フランシスコの次の言葉を引用しています。

この世は与えられたものであるゆえに、効率性と生産性をただただ個人の利益のために調整する単なる功利的視点で現実を眺めることは、もはや私たちにはできません。私たちがいただいたこの世界は後続世代にも属するものゆえに、世代間の連帯は任意の選択ではなく、むしろ正義の根本問題なのです。

（教皇フランシスコ回勅『ラウダート・シ』159）

原発を巡る問題は現在進行形で、しかも待ったなしの状態であることが改めてわかりました。とりかえしのつかない事態を招かないよう、気を引き締めてとりかかる必要があります。

でも、今もなお原発に頼ってきた生活様式をなかなか変えられないのが悩み。

自分の足元と福島で起こっていることが、つながっていることを意識して行きたいと思えます。



みなさんがご存じのことを教えてください

たとえばこんなこと

1. 環境のためにしていること、昔から言い伝えられている知恵

2. あなたにとって、「すべてのいのちを守る」とは？

☆お名前またはニックネーム _____

☆連絡先（メールアドレスや電話番号など）

☆投稿方法 FAX : 06-6920-2203 / メール : sinapis@osaka.catholic.jp

QR コード*

*QRコードの読み込みには、スマートフォンなどでQRコードリーダーをダウンロード
することが必要です。



独立論は「居酒屋独立論」と揶揄されたように、お酒を飲んで威勢良く語られるけれど、真面目には取り上げられないものとされてきました。しかしここに来て、沖縄県内で現実味を帯びて語られるようになってきました。

独立論の前提には、琉球はヤマトとは言語、習慣、歴史を異にする独立国であったという認識があります。日本政府による「琉球処分」、本土防衛のための「捨て石」とした沖縄戦、独立時の沖縄切り捨ての歴史、復帰も「核抜き本土並み」を反故、国内の米軍基地の4分の3を集中させているという現実があります。

様々な独立論

- 1951年 サンフランシスコ講和条約締結前の独立論
「日本に復帰すると米国に琉球を租借され、主権を失う」
- 1970年 琉球独立党（現在の「かりゆしクラブ」）結成
- 2005年より活動再開 自治体選挙に出馬、独立を訴える
- 2013年 琉球民族独立総合研究学会（以下研究会）結成
「独立を前提とし、研究、討論、実践」（研究会HPより）

自立は可能か？

沖縄の有効求人倍率は全国平均より低く、完全失業率は高い。独立後経済的自立は可能か

↓
「米軍基地は経済発展の阻害要因。基地撤去後の跡地利用効果は絶大。ヤマト資本による『植民地経済』からの脱却も可能。琉球の島々は、東アジアのセンターに位置している」（研究会HP）

国連の勧告

国連の自由権規約委員会は、アイヌ民族を先住民と認める（2008年衆参両院決議）だけでなく、琉球・沖縄民族をも先住民と認めること、言葉をはじめとした文化教育を受ける権利や土地の権利について、日本に改善を求めている。

今世界では

今世界的に脱植民地化の流れが起こっています。ウイグル、香港、ニューカレドニア、カタロニア、スコットランド等々。沖縄の独立論もこの一環と捉える考え方もあります。

沖縄では

あえて今独立する必要はあるのか、他の方法を模索すべきとの主張もあります。

二つの危機感

- ・独立しないと、基地がある限りいつか戦争になるという危機感
- ・独立し基地がなくなったら、周辺諸国の侵略を受けるのではないかという危機感



沖縄県民も日本人だ。先住民ではない、という人もいるよ

国連は先に住んでいた人たちの土地や文化を認めようって言うだけ。日本人じゃないとは言っていない。



独立の手続き

- ① 議会で議決
- ② 住民投票過半数で可決
- ③ 独立宣言
- ④ 国連加盟申請
- ⑤ 承認国を増やす

独立を真剣に語り合わねばならないほど、沖縄を深刻な状況に追い込んでいるのは本土の私たち。海の向こうの遠い話ではありません。

歴史に触れよう！

安里屋ユンタ

「サア 君は野中の茨の花か サアユイユイ
暮れて帰れば ヤレホンニ 引き止める マタ ハーリヌ チンダラ カヌシャマヨ」

沖縄の歌の中でも特に有名なこの「安里屋ユンタ」は、元は八重山民謡です。八重山諸島など離島は薩摩藩だけではなく琉球王府からも税を搾り取られてきました。元歌は、竹富島安里屋の娘が首里から派遣されてきた役人に言い寄られたけれど、彼を振り村の長を選び、怒った役人が他の娘を必死で探すさまを滑稽に描いています。搾取に苦しむ民衆が権力者を笑い飛ばして歌うことで、日ごろの憂さを晴らしていたのかもかもしれません。

オスプレイ配備に抵抗する人々を追った映画「標的の村」の中では、普天間基地を完全封鎖した座り込みを排除しようとする警官に対し、この歌を歌って抗議する女性の姿をカメラがとらえています。「安里屋ユンタ」は、権力に対する抵抗の歌として、今も歌い継がれているのでしょう。



「沖縄とわたしたち」は今回で終了します。3年間お読みいただきありがとうございました。

憲法が変わったらどうなるの？ 最終回



3月13日は76年前のアジア太平洋戦争の際、ここ大阪で最初の空襲があった日や

そう、その日は私の誕生日でもあるんだけど、
空襲があった日としても記憶にとどめておくようにしてはいるけど。



でももう、ずいぶん前のこと。ぼくたち、戦争といわれてもピンとこないよね。
じいちゃんから話を聞いたり、学校でも平和学習とかするけど、
やっぱり、どこか遠い世界の話でしかないなって思うわ。

どんな本？

わかる！わかる！ そやねん、それ！と思っていたけど
実はたまたま、このあいだ一冊の本を見つけたのよ。



「AIとカラー化した写真でよみがえる 戦前・戦争」
著：庭田杏珠・渡邊英徳 光文社新書 2020年発行

情報デザインとデジタルアーカイブによる「記憶の継承」のあり方について研究されている渡邊さんとその技術を学んだ庭田さんの作品です。
AIとヒトのコラボレーションによって写真をカラー化し対話の場を生み出す「記憶の解凍」プロジェクトに取り組まれています。



2001年 広島で生まれた庭田さんは語る。

「幼少期から原爆資料館など平和学習で訪れてきたが、今の自分とつながっていることとしてとらえることができず、どこか別世界のことのように感じていた。でも、平和公園のフィールドワークに使われていたパンフレットを手にして見た時に、写真が自分のそうした意識を大きく変えた」

「戦前の平和公園と現在の様子を白黒とカラー写真で見比べることができ、その写真を見たときにはじめて、戦前も今と変わらない暮らしがあったのに、たった一発の原爆でそれが一瞬にして奪われてしまった」

庭田さんはそこから想像し始めたんだって。

原爆投下によって家族全員を亡くした濱井徳三さんという方との出会いもあり、当時疎開先へ離さず持って行った白黒写真を納めた思い出のアルバムを今も大事に残されてた。それを見せてもらって、渡邊さんに教わったAIによる色付け技術を使い、写真をカラー化。
それを濱井さんに見せた時に「家族がよみがえった。家族がそこにいるようだ」って。



わしにも少しじゃが当時の思い出の写真が残っている。
カラー化して当時の記憶をよみがえらせてほしい。ちょっとでいい、わしも！

戦争を体験していないものにとって、自分のこととして想像したり、感じたりすることはとても難しいこと。でも当時の記憶はいろんな形でわたしたちに語りかけているんやね。悲惨な戦争の記録や映像、規模や数字、証言は見聞きするけれど、当時の「暮らし」はなかなか想像しにくい。目の前に置かれた白黒の写真によみがえった彩色。私たちの今の「暮らし」と変わらないものがそこにあったんだなあ実感できた。



遠い過去の「暮らし」や、戦争というものが、私の今の「暮らし」に繋がった。
その線上にある、平和の願いが込められた「憲法」というものが、ようやく私のものになった気がする。
白黒イメージの「憲法」だったけれど、一つ一つの条文には、戦争を経験した人たちの「色」が息づいていて、今のわたしたちに受け継がれているんだと思う。絶対に壊してはいけないね。

今まで、お読みいただきありがとうございました。 完



シナピス工房

好評です！

- *十字架の道行きストラップ
- *大玉のロザリオ(お見舞いに喜ばれています)
- *マスクストラップ など



活動へのご支援ご協力
よろしくお願ひいたします。

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

難民移住移動者支援もよろしくお願ひいたします。

食料品提供のお願い

例) お米、調味料、缶詰など保存のきくもの

お電話をお待ちしています！！

☎06-6942-1784



◆ HP はただいまリニューアル作業中です。
再開まで今しばらくお待ちください。

あとがき

今年度も、シナピスニュースをお読みくださりありがとうございました。年間テーマは「平和」、毎月より具体的な内容に踏み込んでお届けしてまいりましたが、いかがでしたでしょうか。コロナウイルス感染拡大にともない、紙ベースでのお届けができない月もございましたが、皆様のご理解と温かい励ましをいただき今年度を終えることができそうで、心より感謝申し上げます。またシリーズ「沖縄とわたしたち」「憲法が変わったらどうなるの？」が今月で終わります。新年度からは新企画も検討中ですので、引き続きお読みいただければ幸いです。

11月には日本カトリック正義と平和協議会全国大会が大阪で開催されます。実行委員会を立ち上げ、コロナ禍の中でどのような大会ができるのか、試行錯誤しながら準備が進められています。シナピスは、大会が終着点ではなく、一つの通過点ととらえ、今まで以上に皆さまとともに学び、祈り、行動することができるよう努力してまいります。

今後ともよろしくお願ひいたします。(H)

▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

- ◆ 広報活動
 - ・ 教皇メッセージ、司教団メッセージ等 社会活動の指針の伝達
 - ・ 読者と教会内外の社会活動をつなぐ 機関誌としてシナピスニュースを発行
- ◆ 大阪教区・社会活動委員会との連携
- ◆ 学習会研修会の企画
- ◆ こども基金
 - 世界・日本のこどもたちへの援助
- ◆ カトリック中央協議会との連携
 - 正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣
- ◆ 人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ
- ◆ 難民移住移動者支援
 - 難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して
 - 難民移住移動者 相談ダイヤル
 - ☎ 06-6941-4999

アクセス

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22
カトリック大阪大司教区事務局内



公共交通機関ご利用の場合

- JR 森ノ宮駅より 約 1000m
 - 地下鉄中央線森ノ宮 2 番出口より 約 800m
 - JR 玉造駅より 約 1000m
 - 地下鉄鶴見緑地線玉造 1 番出口より 約 800m
- 車でお越しの場合
阪神高速 1 3 号東大阪線法円坂出口
法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがひします

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス



忘れない＊あきらめないカレンダー

どんな状況下でも、忘れず、あきらめず、希望をもって歩む皆さまに、情報を配信します。



2021年3月の案内

★印 カトリック関係

2021年 祈禱の信徒 祈りの意向 3月

福音宣教の意向： 和解の秘跡

神の限りないあわれみを味わうために、和解の秘跡を新たな深みで体験することができますように
日本の教会の意向： 東日本大震災被災者のため

東日本大震災10年目にあたって、被災者の自立に向けてともに歩む決意を新たに、
復興に向けて尽力する人々を援助することができますように

新型コロナウイルス感染症の影響で中止される場合があります。事前に各主催者へお問い合わせください。

1	月	エイズ差別ゼロの日 [UNAIDS]
2	火	
3	水	世界野生生物の日 ●赤木俊夫さんの無念を晴らせ! 怒りのデモを! ■場所:大阪城公園「世界連邦平和像」前 18時集会 19時デモ出発 主催:「森友学園」疑獄を許すな!実行委員会 連絡先fax06-6304-8431
4	木	
5	金	
6	土	●さあ原発ゼロの時代へ 2021なくせ原発!おおさか集会 ■ZOOM配信 14時~16時 オンライン500名 完全予約制 記念講演:大島堅一さん(龍谷大学政策学部教授)「福島原発事故10年 原発ゼロ社会の実現に向けて」 主催:原発をなくし自然エネルギーを推進する大阪連絡会(原発ゼロの会・大阪)/全大阪労働組合総連合(おおさか労連) 申込先Tel06-6949-8120 fax06-6949-8121 info@genpatsuzero-osaka.com ●2020年 グループZAZA・連続講座第4回 ■場所:エルおおさか6階大会議室 13時半開場 14時~ 講演:「植民地支配責任とは」講師:平井美津子さん(大阪府立中学校教諭) 主催:グループZAZA 連絡先Tel090-6067-0560
7	日	
8	月	国際女性デー
9	火	
10	水	
11	木	●福島原発事故から10年、摂津・吹田市民パレード ■場所:明和池公園→サンメゾン千里丘ちびっこ広場までパレード 10時~11時 スタンディングアピール希望9時半~千里丘駅東口集合 参加費:無料 主催:原発ゼロの会・摂津、千里丘(吹田) 連絡先:九条の会・摂津 Tel06-6381-5709 新日本婦人の会・摂津支部 Tel06-6381-9504
12	金	
13	土	●第8回いのちの光3.15フクシマ「3.15から10年 フクシマが背負ってきたもの伝えつづけるもの」 ■ネット配信(YouTube) 14時~ 講演「福島の現状について~飯館から見え、考えてきたこと」講師:伊藤延由さん(避難者) 写真パネル展示・販売「福島の記憶 3・11で止まった町」飛田晋秀さん(写真家) 主催:「いのちの光3・15フクシマ」実行委員会 問合せTel090-2022-4007(木元) inochinohikari315@yahoo.co.jp ●奥野・山口「君が代」不起立処分撤回闘争9周年記念集会 これでええのん?大阪の教育支援学校の現場から -君が代強制で失うもの- ■場所:エルおおさか南1023 13時半~14時総会 14時半~シンポジウム「合理的配慮とは」資料代:500円 共催:奥野さんを支える叫ぶ石の会 連絡先luke19_40cry@yahoo.co.jp(奥野) 支援学校の君が代不起立応援団 連絡先Tel090-1914-0158(笠松)
14	日	●映像で現代を語る会 ■場所:大阪市北区民センター 18時~ 上映:「その時沖繩は沸騰した~日米地位協定の波紋」(BSアナザーストーリーズ)、「コロナ危機 女性にいま何が」(NHKスペシャル) 会費300円 主催:映像で現代を語る会 問合せTel090-5151-9763(中森) ●韓統連セミナー2021「統一における南の役割、私たちの役割」 ■場所:KCC会館5階ホール 13時半受付 14時~ 報告者:金隆司さん(韓統連大阪本部代表委員) 参加費:800円(青年・学生は500円) 主催:在日韓国民民主統一連合大阪本部 問合せTel090-3822-5723 崔(チエ)まで
15	月	●第78回キリスト者原発学習会 ■場所:大阪クリスチャンセンター301号室 10時15分~12時15分 内容:第3回「自衛隊も米軍も日本にはいらぬ!」(花岡蔚(しげる)さん著)を読み合わせ、内容を深め実現化を図る 担当:中本幸美さん 会費:500円 ※ノンクリスチャンの方でもご参加大歓迎 事前申し込み 主催:キリスト者原発学習会 連絡先Tel090-3974-1166(弓場)

16	火	<p>●関電株主代表訴訟第1回口頭弁論 ■場所:大阪地裁前 集合9時15分 大法廷開廷10時半 終了後 記者会見&報告集会(堂島ビルディング9階会議室) 関電株主代表訴訟原告団 関電の原発マネー不正還流を告発する会 TEL080-5342-4819(滝沢)</p>
17	水	
18	木	<p>●非核「神戸方式」決議 46周年記念のつどい ■オンライン(zoomウェビナー)で開催 13時半受付 14時~16時 記念講演:鈴木 達治郎さん(長崎大学核兵器廃絶研究センター副センター長、教授) 参加費:1,000円 主催:非核「神戸方式」決議記念集会実行委員会 TEL078-341-2818 fax078-371-2427 ✉hikakukobe@yahoo.co.jp</p>
19	金	
20	土	国際幸福デー
21	日	<p>国際人種差別撤廃デー 世界ダウン症の日 国際森林デー (International Day of Forests)</p> <p>★シナピス映像カフェ~海を越えてつながるのち~「海女のリャンさん」(2004年)上映、分かち合い ■オンライン(ZOOM) 参加費無料 メールにてお申し込みください。後日URLをお送りいたします。 申し込み〆切 3月14日(日) 主催・問い合わせ シナピス TEL06-6942-1784 ✉sinapis@ossaka.catholic.jp</p>
22	月	世界水の日
23	火	世界気象の日 [WMO]
24	水	世界結核デー [WHO] 著しい人権侵害に関する真実に対する権利と犠牲者の尊厳のための国際人権デー
25	木	奴隷及び大西洋間奴隷貿易犠牲者追悼国際デー 拘留中または行方不明のスタッフと連帯する国際デー
26	金	
27	土	<p>★ちよっと待った!改定入管法「外国人が暮らしにくい社会は日本人にも暮らしにくい」 14時~16時 ■オンライン(ZOOM) メールにてお申し込みください。後日URLをお送りいたします。参加費無料 改定入管法の内容と当事者の声 主催・問い合わせ シナピス TEL06-6942-1784 ✉sinapis@ossaka.catholic.jp</p> <p>●「アジアから問われる日本の戦争展」2021 プレイベント ■場所:エルおおさか 本館5階視聴覚室 13時開場 13時半開始 上映:「我が青春に悔いなし」 解説:黒田伊彦さん 資料代:500円 主催:設置理念に則ったピースおおさかを取り戻す会 問合せTEL090-3822-0404</p>
28	日	<p>●3・28 五輪反対集会「五輪より人の命コロナ感染危機を共に生き抜こう」 ■場所:大淀コミュニティーセンター1階・ホール 14時~16時半 特別講演:天笠啓祐さん(ジャーナリスト 日本消費者連盟顧問) 参加費800円 主催:東京オリンピック・パラリンピック反対!実行委員会 連絡先TEL090-4280-3952(喜多幡) ✉kitahata@ss.ij4u.or.jp</p> <p>●「戦争法」違憲訴訟4月16日控訴審判決前集会 ■場所:エルおおさか・南館5Fホール 13時開場 13時半~ 講演:半田滋さん(東京新聞論説兼編集委員)「『戦争法』成立以後の日米軍事一体化と民衆の抵抗」 資料代:800円 学生半額・介助者無料 手話通訳あり 弁護団報告:冠木克彦さん(弁護団長) 主催:「戦争法」違憲訴訟の会 連絡先TEL06-6315-1517 fax06-6315-7266</p>
29	月	
30	火	
31	水	

